

歩き方で通行人認証

顔に加え 秋にも実験計画

JR大阪駅で

市民の反発を受けて延期されたJR大阪駅（大阪市北区）の駅ビル「大阪ステーションシティ」での通行人の顔認証実験について、独立行政法人「情報通信研究機構」（東京都）は、歩き方や服装などを基にした認証も実施する計画を、有識者による第三者委員会に提示した。認められれば、今秋以降から来年度にかけて数回実施される見込みだ。

機構の計画では、顔や歩き方（歩容）、服装、髪形など外見的特徴に基づき、カメラに映った人物にIDを付けた。新たな認証手法が加わったことについては、「当然、駅ビル内での移動を追跡する。人の流れをつかみ、災害時の避難計画を立てる際に有効なデータになるかどうか検証するという。」

映像は個々の特徴を数値化した時点が消失し、個人の特定もしない。歩容などのデータと顔データも統合しない。被験者を募って事前に小規模な実験をする。VTR実験中は看板やポスターで通行人に告知すること

情報 デモクラシー

私の記録は誰のもの？

2014

「目下部聡」
 来た。不特定多数の人々が行き交う環境での実験は初めてという、一人数の多さや人の動く方向など複雑な要素が多く、やりがいがある」と話す。また、不鮮明な画像を解析の対象とする

「目下部聡」
 来た。不特定多数の人々が行き交う環境での実験は初めてという、一人数の多さや人の動く方向など複雑な要素が多く、やりがいがある」と話す。また、不鮮明な画像を解析の対象とする



歩容認証

歩幅や腕の振り方など歩き方の癖をコンピュータで数値化し、個人を識別する。顔がはっきり映っていない映像でも解析できる。大阪大の八木康史教授によると、2歩の映像が1秒間あれば解析できる。髪型や背丈など外見の特徴を加味すればさらに精度が上がる。

頼している。第三者委の会合は計4回の予定で、7月までに3回開かれていたが、能見氏は「予定通りになるかどうかも含め分からない」と話している。

開かれた議論でデータ悪用防げ

【解説】情報通信研究機構が昨年11月に大阪駅ビルでの実験計画を公表した時の発表文に「顔

や「歩容」などの言葉はない。「施設内の状況を映像データとして取得する」などと、あいまいに表現されているだけだ。能見氏の人の顔写真を例とした小さな図表があり、ようやく顔認証と推測できる。

歩容や外見的特徴の解析については、今年4月に第三者委員会に提示する形で初めて持ち出した。しかし、第三者委の設置は、そもそも当初は予定になかった。第三者委の議事録は発言者

初は名前を伏せる方針で、委員が覆した。委員会の開催日程は、今も非公表だ。実験に違和感を覚える人の不安は「データがどう使われるか」という点だ。機構が自ら率先して情報を開示する姿勢を打ち出さなければ、不安を解消することは難しいだろう。

先端技術を使って大量の情報を集める組織に、駅の中を歩くだけの個人の思いを伝えることは難しい。嫌だと思えば拒むことができる。第三者がチェックできない仕組みなどを、開かれた議論を積み重ねて構築する必要がある。【目下部聡】

MAINICHI

新毎日

8月2日(土)
 2014年(平成26年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号
 〒530-8251 電話(06)6345-1551
 毎日新聞大阪本社